

神奈川県高等学校

交通安全教育資料

この資料は、交通安全教育に役立つ県内外の情報提供を目的とし、各学校に教員数分を配付しています。学校の状況に応じて、生徒分を増刷し、ホームルーム活動等に利用してください。

第 37 号

平成 19 年 6 月 8 日 発行

発行 神奈川県高等学校交通安全教育研究会

監修 神奈川県教育委員会
教育局保健体育課



死亡者数九名の内訳は、自動二輪運転中三名、同乗一名、原付三名、自転車二名となっています。バイク事故の大半は交差点内で他の車両と衝突したものでした。バイクによる交通事故死傷者はかながわ新運動がスタートしてから減少を続け、初めて千名を割り込みました。

自転車事故、二輪車を上回る

～平成十八年統計より

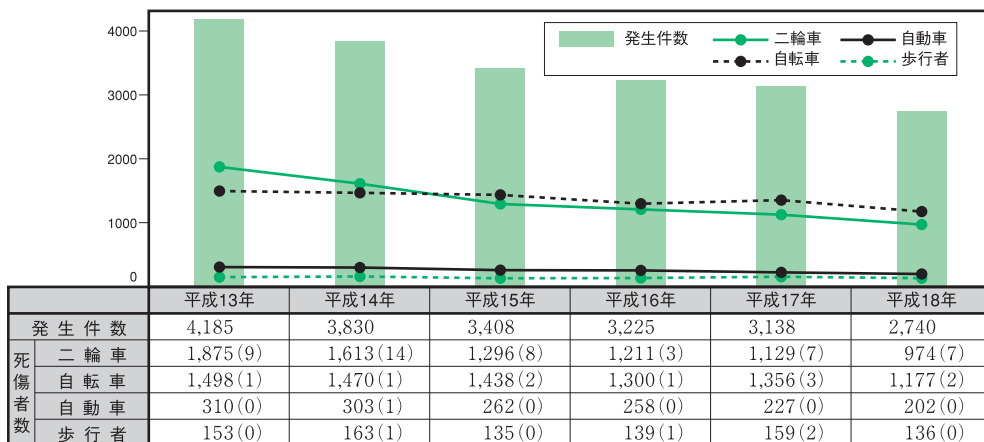
県警によれば、平成十八年中に県内で起きた高校生の交通事故発生件数は二、七四〇件で、前年と比べ三九八件減少したものの、死亡者数は九名でほぼ横ばいの状態にあります。

しかし、依然として多くの高校生が在学中にバイクの免許を取得している中、今年に入ってバイク死亡事故が四件も発生していることなどから、交通安全教育の徹底が求められます。

一方、自転車の死傷者は四年連続してバイク事故を上回りました。各地区での交通安全担当者会議でも自転車事故の増加が指摘されています。危険な乗り方で加害事故を起こす事例や、事故を起こしても警察に届けない事例もあり、高校生に対する自転車の交通安全教育が急務となっています。

これから夏に向けて事故数が増加することも考えられることから、各学校では自校の状況を把握し、実情に即した指導を強化していくことが必要です。

▼県内高校生の事故発生状況（県警調べ）▼



()内は死亡者数 [内数]

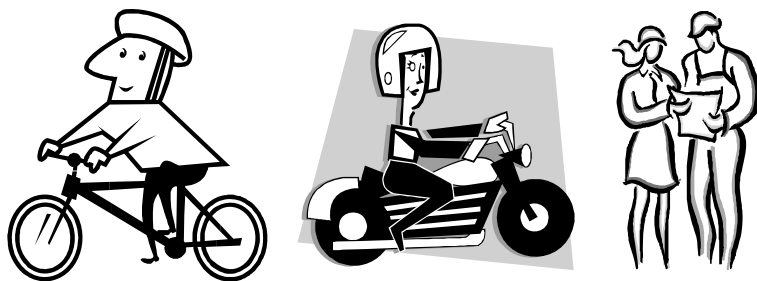
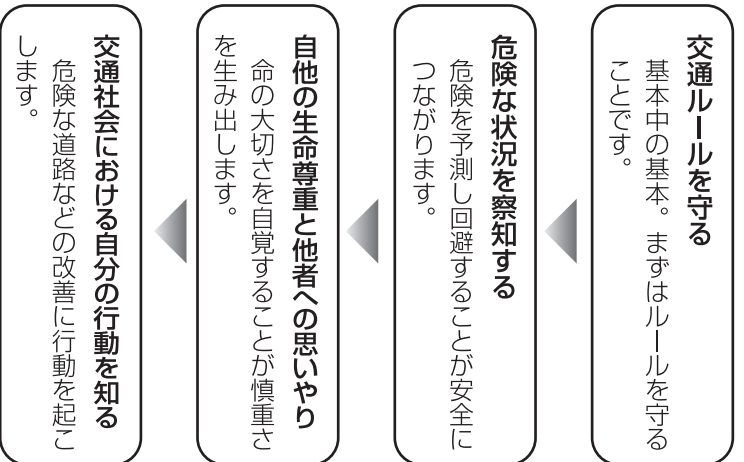
「命」を大切にすることの一つとして私達は あした 未来を生きる「交通教育」を提案します。



交通教育とは

「かながわ新運動」は「高校生は生命尊重と自他の安全の確保に努め、くるま社会の一員として社会的責任を自覚し、交通事故防止に努める」運動です。「交通教育」は「かながわ新運動」を包含する地球全体の環境や命の大切さを教える教育です。よりよき交通社会人として、これからの交通社会全体のあり方を考えさせていくことが「交通教育」です。児童生徒のいじめ、自殺などから「命」の大切さが語られている今、自他の命の大切さを改めて認識し、考えさせるには格好の材料となります。交通教育は、いじめ、自殺、エイズ、環境問題にも共通する「命」を守る教育でもあるのです。

交通教育の流れ



くるまに乗らない選択

どんなに気をつけたとしても人間にうっかりミスや判断ミスがある限り、どうしても交通事故は起きてしまいます。交通安全の問題を考える時、交通事故をなくすと言っただけでなく、このヒューマンエラーを前提にした、交通社会全体に関わるさまざまな問題を考え抜いていく視点が必要になってきます。

一人ひとりが交通社会全体を考えて、車の総台数を減らすための「くるまに乗らない選択」をすることや、ミスを起こしても重大な結果にならないような「安全な街づくり」に参画するなどの行動を起こすことを考えなければならぬでしょう。

真の「豊かな社会」の実現

資源とエネルギーをふんだんに使って出現させた「豊かな社会」が、そのまま「くるま社会」であり、そのマイナス面が交通事故や環境問題でもあります。

人の命と生活を大切にすることを基本とした、真の「豊かな社会」の実現について考えさせることが大切です。

交通事故はまた、事故を起こした当事者間だけの問題ではなく、交通渋滞を起こすなど、さまざまな社会的損失を生じさせてしまうという側面を持っています。自分は安全に運転する。自分は事故を起こさないといいただけではなく、望ましい交通社会の実現に向けて、もっと積極的な姿勢を取ることが求められています。

交通教育

交通社会のシステムの問題、環境に関わる問題、それらを解決しつつ、生活者にとってより安全、安心な社会の実現を目指すには、もっと一人ひとりが交通の問題を自らの問題として考えるといった視点が必要です。

そうした積極的な姿勢を育むことこそ、今私達に求められている「交通教育」という考え方です。

どんな場面でも、どんな風でも

(1) 集会や「HP」など

ルールはもとより、危険予測の方法などを伝えていくことができます。学校近辺で事故の起こりやすい所をデジタルカメラで撮り、映像で紹介することは、かなり有効なようです。生徒のうっかり行動の指摘や、ミラーなどの死角も紹介できます。

(2) 地理歴史・保健の授業など

「くるま社会」が温暖化や酸性雨を促進させてしまっていること。省エネのために、なるべく車に乗らない選択や公共交通機関の利用を促すことが環境問題の解決につながります。

「命」やそれを奪われる「かなしみ」について語り合えます。

(3) 生徒会活動で

各地区の交通安全高校生会議での実践として、地域の「危険マップ」作成などがあります。これで危険を予測させるだけでなく、一歩進めて、よく事故が起こる場所への信号機の設定などを警察や自治体に要望していくことなども大切な行動です。

(4) PTA・近隣学校との連携で

地域の安全を考え、自治体にさまざまな要望などをしていく時は、PTAと共に行動したり、近隣の小中学校や自治会などと連携したりするとより効果的です。

平成十九年度 公開授業

県立横須賀工業高等学校

五月八日、県立横須賀工業高校で自転車実技講習会が開かれ、全県の交通安全教育担当者に公開されました。

入学して慣れ始めたこの時期に、自転車通学者だけでなく一年生全員に実技講習を受けさせ、交通安全の徹底を図っています。この講習は昨年から開かれています。

講習内容は、一年生を三つに分け、実技講習二つと視聴覚室での講義を受けさせます。各講習は二十五分で、午後の二時間を使って行いました。この実施に向け、教員と各クラスの交通委員が交通安全推進委員会で数回にわたって検討・協議の上で実施したもので、生徒一人ひとりに訴えることのできる交通安全教育の一つのモデルプランとも言えます。

自転車実技講習を開いている高校はまだ少ないのですが、自転車事故の増加やマナーの悪さが叫ばれる中、各学校でも積極的に取り入れてほしいものです。自転車を使って、交通社会の一員としての自覚と、生涯にわたる安全を身につけさせることは、学校行事として行う交通安全教育の大きな柱にもなります。

今回の指導には県警横須賀署とくらし安全指導員の全面的な協力もあり、われわれに交通安全についての専門的な知識や技術がなくても、効果の得られる良い例ではないでしょうか。



平成十八年度 公開ヤングライダースクール

県立松陽高等学校

昨年十二月十四日、県立松陽高等学校で二輪免許取得者を対象とした安全運転実技講習会が開かれ県内の交通安全教育担当者に公開されました。

講習内容は、スラローム走行やブレーキ操作、車の運転席からの死角体験などで、学校の敷地内で開かれたことが特徴となっています。

参加者四十三名の感想には「運転技術の未熟さがわかった。」「二輪車の性能を理解し、安全運転を心がけたい。」といった感想が聞かれました。

松陽高校では平成十七年より講習会を開き、免許取得を届け出た生徒を対象として校内で実施しています。車両はすべて借用し所轄警察と交通安全協会、二輪車安全運転普及協会からの協力が大切であることが講習会後の懇談会で報告されました。

平成十八年度 公開授業

県立神田高等学校

「自他の生命の尊重」を基本とし「交通社会人」として正しい行動が取れることを学習目標とする学校設定科目「交通安全」を週三時間、三年生を対象に自由選択科目として開講しています。

十二月六日の公開授業では、平塚消防署の協力を得て講義と救急法を実際に体験しました。

救急法の基本を知り、さらに講習を受けるきっかけとしたり、救急法の難しさを実際に体験することが目標でしたが、参加した生徒は「三角巾での包帯法」「負傷者の搬送法」「応急担架の作り方」

「心肺蘇生法」「AEDの使用法」などの実習に真剣に取り組んでいました。

交通安全に関する資料

各学校で効果的な活用を

毎年、各学校に配布されている交通安全に関する様々な資料の一例を紹介します。

各学校や地区の取組みに応じた効果的な活用をお願いします。

「かながわ新運動とは」～新入生向け啓発資料
合格者説明会や入学後のオリエンテーションなどで扱われている資料です。

本年度については、様式などを改定し、新入生分を配付しました。各学校で作成している資料とともに活用してください。

「わたしたちの交通安全」

～地区交通安全高校生大会記録集

平成十八年度に行われた十地区の交通安全高校生大会の記録集で、各学校四部配付されます。

高校生が直接手がげた内容を、各学校の生徒に広く浸透させるとともに、本年度の準備資料としても大いに役立ちます。

